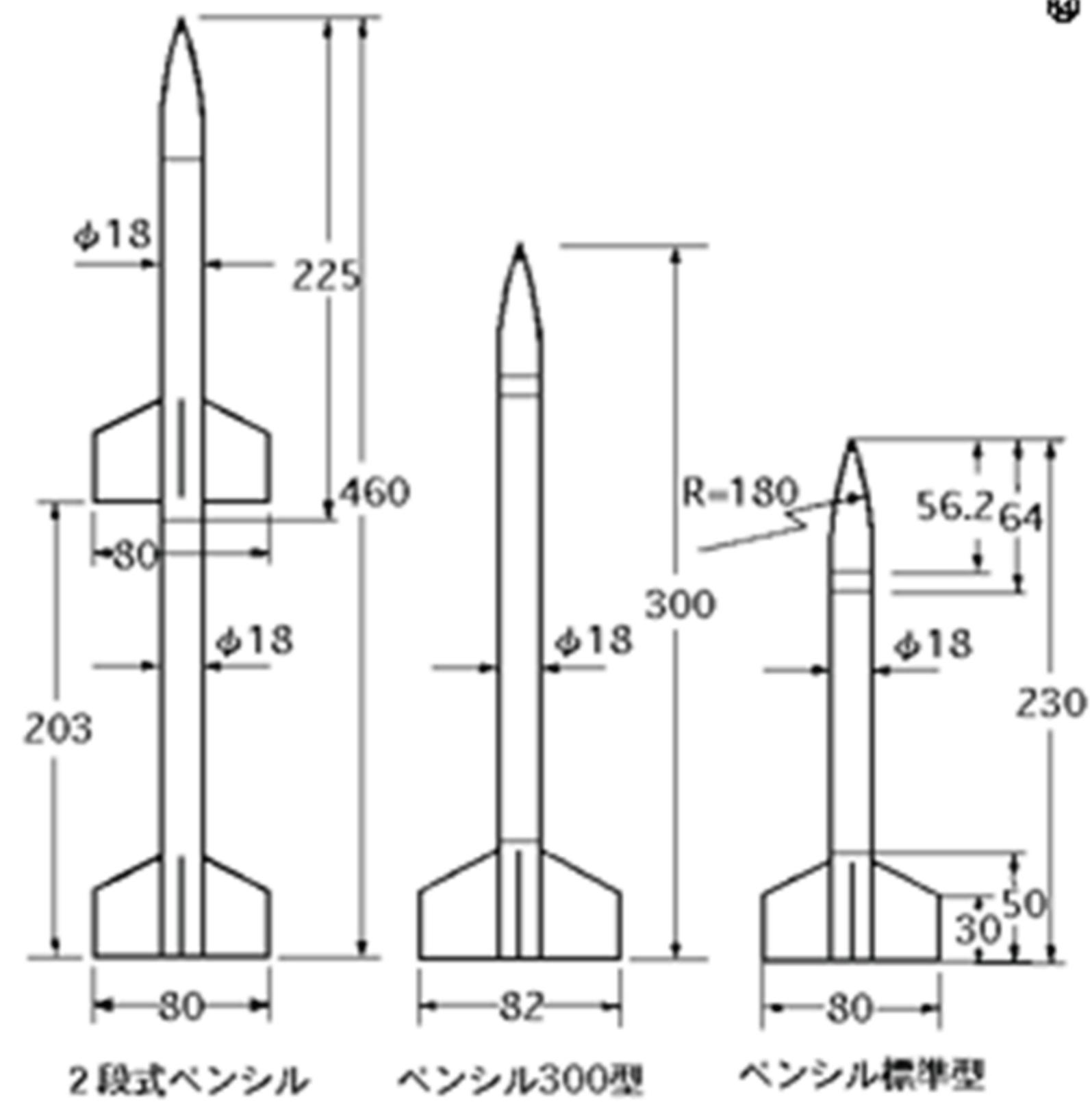


ペンシリロケット

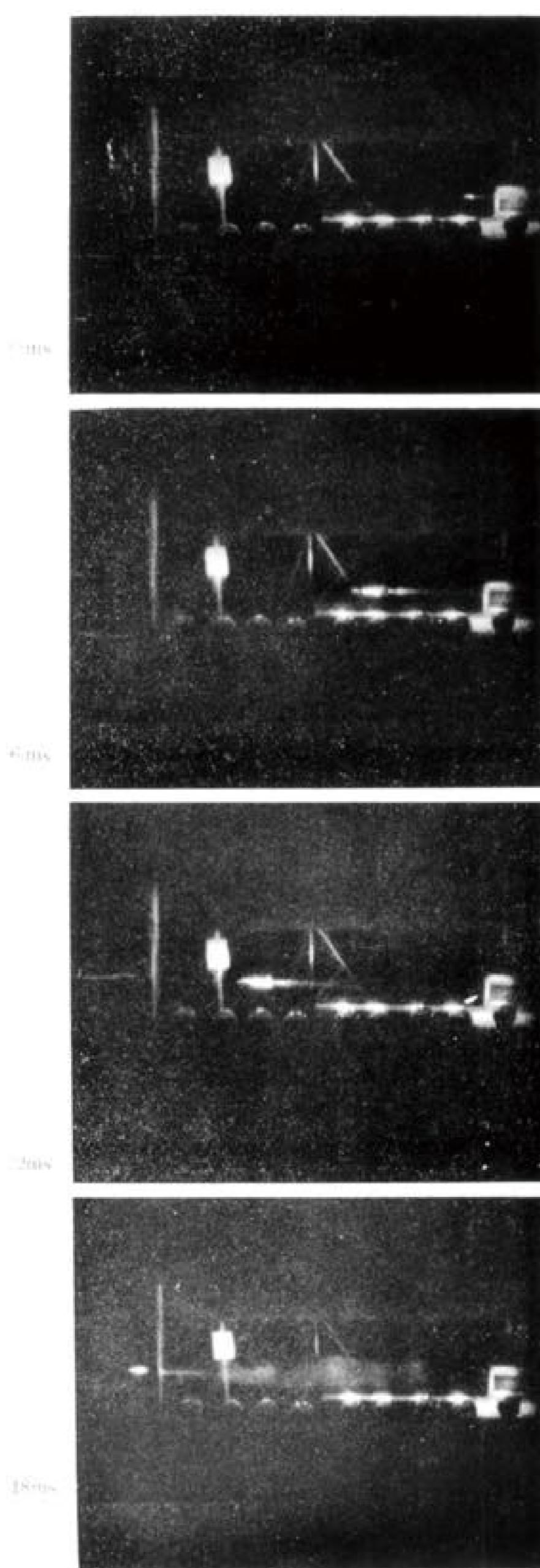


3種類のペンシリロケット



●主要諸元

	標準型	300型	2段式
全長(mm)	230	230	230
重量(kg)	0.186	0.186	0.186
外径(mm)	18	18	18



高速度カメラによるペンシリロケットの発射記録

日本の宇宙開発はこの小さなロケットから出発しました。

終戦後の航空技術の研究・開発の禁止が解かれた1952年(昭和27年)頃の日本の航空技術は世界から大きな遅れをとっていました。

「航空機がだめならロケットで…」糸川英夫教授の逆転の発想で開発されたのがペンシリロケットです。

火薬を新たに開発せずに既製品の火薬を使い、その形状に合わせたロケットにしたため小さなロケットになりました。そのおかげで数多く作れて基礎的な飛行実験の回数を多くすることができました。また、レーダー装置等の追跡設備がなかったため、1m間隔に張った紙を突き破るように水平に飛行させて、飛行特性の測定をしました。

1955年(昭和30年)4月12日、最初のペンシリロケットの発射実験。日本の宇宙開発は、この日、まさに逆転の発想、水平思考から始まったのです。